

臨床研究のお知らせ

研究課題名：

「歯列矯正用咬合誘導装置(T4K[®])と顎機能矯正装置(Bionator、B.J.A.)の治療効果の比較」

1. 研究内容

近年、従来の顎機能矯正装置を用いて骨格のバランスを整えたり、深い咬み合わせを改善したり、不正咬合を誘発しやすい習慣を改善する治療にかわり、既製で高分子材料でできたマウスピース型の装置の登場によりこれを用いて改善する試みが行われています。

これを用いることで装置作製のための型取りの必要がないことで装置を即日使用開始できることや、軟らかい材料でできているため痛みが少ないなど、患者さんの負担が少なくすることが可能になるものと予想されます。しかし、適応範囲の限界や症例の選択の必要性が考えられます。この研究では、より簡便でソフトな装置を用い、患者さんがより快適に良い治療結果を得る治療法の開発を目的としています。検討された治療法が従来の治療法に比べて有効性が明らかになることにより、矯正治療を受ける患者さんがよりよい治療を受けることができるようになります。

2. 対象

2000年(平成12年)4月1日から2016年(平成28年)3月31日までの期間中に、矯正歯科にて、従来の顎機能矯正装置(Bionator、B.J.A.)による矯正治療を受けられた患者さんが対象となります。

3. 研究の方法について

診断により既製の歯列矯正用咬合誘導装置の適応となった混合歯列期の患者さんの咬合の改善に同装置を使用して治療を行います。初診時、矯正治療終了時に、写真検査(顔面写真、口腔内写真)、模型検査(口腔内模型)、X線検査(正面セファロ、側面セファロ、パノラマX線写真)を行い、歯列矯正用咬合誘導装置(T4K[®])を用いた場合と顎機能矯正装置(Bionator、B.J.A.)を用いた場合とで比較検討を行います。

協力していただいた方に、本研究の結果が、直接利益および不利益となるような情報をもらう可能性はありません。また、治療上においても不利益を被る事はありません。

協力いただいて得られた研究の成果は、個人情報を厳重に保護したうえで、学会発表および学術雑誌などで公表することがあります。今後の歯科医学発展のために、ご理解ご協力をお願い致します。

2016年3月

問い合わせ先 愛知学院大学歯学部 歯科矯正学講座
研究分担者 宮澤 健
連絡先電話番号 052-759-2111